

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日	令和7年4月16日	
② 法人・団体名	特定非営利活動法人 regional childcare support こはく		
③ 団体所在地	〒377-0205 群馬県渋川市北牧 502-3		
③ 責任者氏名	進藤由紀子	(役職名等)	代表理事
④ 担当者氏名	同上	(役職名等)	同上

【奨学活動の概要】	⑥助成交付決定番号	R06-013	⑦助成金額	80万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	学習や生活に困難を抱える子どもたちへの心と学習の支援活動					
⑩主な実施場所名・及びその住所	渋川教室・安中教室・高崎教室					

⑪活動内容とその成果の概要

交付していただいた助成金により、子どもたちの学習支援活動(補習学習)を無料化することで、保護者の経済的負担が減った。また、以下のような取り組みを行うことができた。

○学びたい子どもたちへの学習支援時間の確保(約13名)

※独自に考案した無料学習チケットを毎月配布し、子どもたちが学びたい時間に自由に使用できるようにした。学習時間の延長・補習など各自が自分の必要のある時間に気兼ねなく、学習に取り組む機会を作れた。

○個別支援の学習時間の充実

※基本的・基礎的な学習の定着のできていない生徒に対し、補習の時間を料金の心配などをしなくて済むため、躊躇なく促すことができた。特に、高崎教室においては、地域の放課後デイの教室とのつながりがあり、放課後デイに来ている子(特別支援学級の生徒が多い)の学習の支援を委託されることが多い。そのため、公立高校への進学を願う保護者・本人も多い。そのための支援時間はとても学習時間を必要とするので、助成金の活用により、料金の心配をすることなく多くの時間を確保することができた。

○進路指導また保護者への助言活動

※個々の考える自分の未来について、話し合うことができた。本人の願いを保護者と共有し、親子で思いを一つにして高校進学へと意識を高める時間の確保ができた。

⑫奨学活動の定量的把握 (注:統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。)

支援対象	延べ人数 (A:人)	平均時間 (B:時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	180	1.5	270	
高校生等	36	1.5	54	
大学生等	18	1.5	12	
学習支援員等				
その他	117	2	234	
合計			570	

【様式3-2】令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：学習や生活に困難を抱える子どもたちへの心と学習の支援活動

法人・団体名：特定非営利活動法人 regional childcare support こはく

作成者 氏名：進藤由紀子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

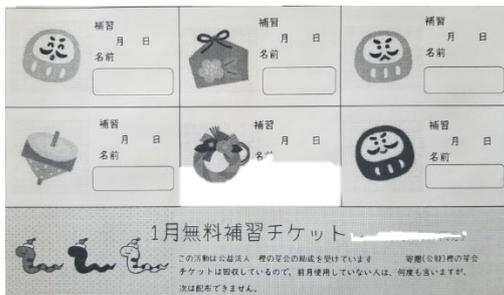
課題

- 受験に必要な基礎的・基本的学習内容定着のための個々の状況における補充学習時間の確保
- 学習活動を通して、子どもたち一人ひとりとよく向き合い、理解すること。そして、進学に対する意思を確認し、目標の設定をさせ、それに向かって頑張り続けることができる子どもたちの育成

実践内容

- 毎月「無料学習支援チケット」を配布し、子どもたちが学びたい時間にそれを活用して無料で学習支援を行った。
- 今年度は、特別支援学級在籍の受験生が3名いた。以前からだが、やはりこの3名も中学2年生までの教育課程を全て終了していなかった。また、同級生たちに配布されている問題集を渡されていなかったり、定期テストの範囲までの学習内容が未実施なのに、テストを受けさせられたりとほとんどの生徒・保護者が不満を口にしていた。そのため、不安を感じる保護者から学校にお願いをしても「学校は学校のやり方がある」と言われ却下されることもあった。特別支援学級在籍の子どもとの関わりが多いため、この現状をどうにか変えたいと学校にもアプローチをしてきたが、なかなか受け入れてもらえないというのが現状である。そのため、当団体での学習支援活動で、個々に対して学校教育とできるだけ近い学習過程の支援の必要性を感じ、取り組んできた。ただ、そのためには、個々の学習時間の確保はとても大変だった。あまり長い時間の集中力も続かないため、30分延長などの学習時間をチケットを利用して、個々に応じた学習への取り組み方を工夫し、取り組ませることができた。中には、家庭訪問などでの追加支援も必要な時があった。令和7年度は、特別支援学級在籍児童が7人(うち2名が中学3年生)
- 不登校児童の保護者は、焦りが強く、どうにかして遅れた学習を取り戻したいという気持ちが伝わる。が、まずは、体力をつけなくてはいけないこと、頑張る気持ちを持たせないといけないことなど学習以前に取り組まなくてはいけないことがたくさんあることを伝えて来た。学習以外の時間への取り組みなどにも時間がかかり、チケットを利用しての支援ができた。
- 高校生・大学生は、パソコンのスキルを高めて検定などの取得への意欲を高めて来た。テスト前の課などの取り組み・中学の学習の振り返りなどの時間の確保にチケットを利用した。

2. 実施した奨学活動の詳細



毎月チケットを配布し、30分単位ずつ使用できるようにミシン目を入れ、生徒たちが補習などで使用する時に提出できるようにした。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

- 子どもたちに寄り添う学習支援・子どもたちの伴走を続ける学習支援活動には、指導者の根気強さ・指導者の人間性・健康状態・心の在り方などがとても必要であることを団体での学習支援を通して、痛感してい

る。そのためには、全てをボランティアで支援し続けることには限界がある。助成していただいたことで、その指導者の憂いがかかなり軽減され、子どもたちに最適な学習の支援は何であるかを考え、一人ひとりに対し十分な支援が行えたと思う。

- 兄弟・姉妹で通って来てくれている家庭も多く、経済的な負担も多く、子どもたちがより多くの学習時間を希望していても口に出せず、行動できずという事が見られたが、助成金でのチケットの配布により、気兼ねなく自分の必要な時間に補習を受けることができた。
- ガソリン代の高騰により、各教室・各家庭に出かけた際の支出が多くとても負担が多かったのが、助成金での補助ができたので良かった。
- 今年度の後半から、放課後デイサービスとつながり、そこでの不登校だが公立高校への進学をしたい・特別支援学級在籍で進学をあきらめている生徒などの教育の支援の協力を求められることが多くなった。特別支援学級在籍のため、通常高校への受験を諦めている家庭がほとんどである。公立高校の受験の可能性を見出し、希望通りの進学ができるように支援していきたいと思う。ただ、特別支援学級の実態を考えると大変な苦勞が強いられると感じているが諦めずに子どもたち・保護者と頑張っていきたい。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

昨年度は、当団体の視察に来ていただきました。遠方までありがとうございました。色々な思いがありましたが、上手に伝えることができなくてご迷惑おかけしました。ホームページの掲載もしていただき、本当にありがとうございました。

長い間、「教育」に携わって来ましたが、13年目にして色々考えることが多くなりました。

現在の学校教育の在り方を考え、今までの自分自身の意識を振り返り、修正しなければいけない点も多々発見しました。また、学習を通して、心の成長を促す支援をしてきました。その取り組みは間違っていなかったと反省が多い中でも、感じる事が出来ています。

私は、特別支援学級に在籍するお子さんや学びに困難を抱える子どもたち、不登校の生徒などに進学を促し、そのために一緒に頑張ってきました。不登校からの復学や学力が著しく低い子たちの受験指導には、時間も手間もかかりますがその分、得られるものも大きく、「本人の力を信じること」「粘り強く支えること」の大切さを学びました。特別支援学級に在籍していても、3年間の学習過程を十分に終えられていない現状があります。しかし、たとえ学力が低くても、支援次第で「受験」や「高校進学」という目標に向かって歩むことができることも確信しました。今後は、この特別支援学級の生徒たち向けの学習支援教室を新規の事業として加え、今までの実績なども踏まえ、もう少し多くの生徒に受験を体験させることで「がんばれる」「あきらめない」子どもたちの育成に尽力していきたいと思っています。

助成をしていただいたことが私の責任になり、自分自身のしている事の意義をじっくりと考えるようになりました。まだまだやれることもあると思います。が、まず、できることから少しずつ取り組んで行こうと思います。